

2021年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

## ◎BEST DEALS OF 2020 を選出:アサヒ G が社債・株式両部門で受賞

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2020”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2020年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

アサヒグループホールディングスによる大型買収のリファイナンスが社債・株式両市場で大きな存在感を示し、普通社債部門のISSUER、既公開・公募DEAL部門で受賞。普通社債ではNTTファイナンスの1兆円ディール、財投機関債等では初の大学債となった東京大学債、地方債では定時償還債に国債プライシングを導入した千葉県債が受賞した。IPOでは初の期越えのグローバル案件となったブレイドが、不動産投資信託証券部門ではJ-REIT初のABBだったGLP投資法人の公募がBEST DEALを獲得している。マーケティング期間の短縮がテーマとなるなか、リクルートホールディングスの売出、ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人の公募案件も評価された。

以下が授賞リスト(〈〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

### 普通社債部門

#### BEST DEALS OF 2020

第15回	NTTファイナンス債	12月11日	3年	1000億円
第16回	NTTファイナンス債	12月11日	5年	3000億円
第17回	NTTファイナンス債	12月11日	7年	2000億円
第18回	NTTファイナンス債	12月11日	10年	4000億円

〈SMBC日興/三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/野村/大和〉

国内の社債史上最大の総額1兆円を調達した。POT方式による運営と3段階に分けたサウンディングで適正水準を精査し、2兆4000億円ほどの需要を延べ1100件超の投資家から集め、国内市場のキャパシティを示した。

## 特別賞

劣後第1回 九州電力債	10月9日	60年 (NC5)	700億円
劣後第2回 九州電力債	10月9日	60年 (NC7)	300億円
劣後第3回 九州電力債	10月9日	60年 (NC10)	1000億円

〈みずほ/SMBC 日興/野村/三菱 UFJ モルガン・スタンレー/大和〉

電力初のハイブリッド債。同市場の拡大に寄与し、フリークエントな電力セクターの各社に対して新たな調達手段を示した。投資家との対話に1ヵ月以上を費やして水準を探り、NC10債の利回りを際立たせたことで、総額2000億円の発行額に対して4000億円を上回る需要を創出。一般担保のシニア債とは異なり、無担保で起債した。

## BEST ISSUER OF 2020

### アサヒグループホールディングス

初のハイブリッド債と、初のグリーンボンド(GB)を含むシニア債を計5100億円供給。異なる種類の債券で幅広い投資家に投資機会を提供した。GB以外は豪州ビール大手CUBの買収資金(1兆1850億円)の恒久化が目的。コロナ禍でも安定性のある食料品セクターであることが強みとなり、2回の起債で合計1兆円以上のオーダーを獲得した。同じ目的で、1976億円相当のユーロ建て債も発行している。

## 財投機関債等部門

## BEST DEALS OF 2020

第1回 東京大学債	10月8日	40年	200億円
-----------	-------	-----	-------

〈大和/SMBC 日興/みずほ〉

国立大学初の市場公募債。ソーシャルボンドとして起債し、大学債という新市場の形成だけでなく、SDGs債市場の拡大にも貢献した。200億円の発行額を優に上回る1260億円程度のオーダーを取り込む盛り上がりとなった。政府が関連法令を6月に改正しており、これに基づく第1号だった。

## BEST ISSUER OF 2020

### 日本政策投資銀行

四半期ごとに3年・5年・10年債を発行し、財投機関債のベンチマークの役割を果たしている。コロナ禍の拡大を受けた年度初には3年・5年債で水準を上方修正し、後続の円滑な消化を先導した。7月には財投機関初となる50年債を供給。社債等募集における新ルールが始まった1月には同セクターとして初めてトランスペアレンシー方式を採用した。

## 地方債等部門

## BEST DEALS OF 2020

第12回 千葉県債	4月3日	20年定時償還	300億円
第6回 千葉県債	4月3日	30年定時償還	200億円

〈野村/SMBC 日興/三菱 UFJ モルガン・スタンレー〉

定時償還債で国債利回りを初めてベンチマークとして採用した。コロナショックによる市場の変動で超長期ゾーンの T/L スプレッドが逆転したことから、従来の MS 対比でのプライシングが困難になった状況に対応。新たな手法を導入し、当年度の定償債の安定的な消化を導いた。

#### 特別賞

令和 2 年度第 7-1 回 神戸市債 7 月 31 日 5 年 5000 万ドル

令和 2 年度第 7-2 回 神戸市債 7 月 31 日 5 年 1 億 6000 万ドル

〈ゴールドマン・サックス〉

外貨建て国内債市場で、ユーロクリアバンクと連携してグローバルスタンダードに近い DVP 決済スキームを初めて導入。同市場の拡大に貢献した。従来の非 DVP 決済方式との 2 本立てで起債し、総額 2 億 1000 万ドルと当時の外貨建て国内債として最大規模だった。

#### BEST ISSUER OF 2020

該当なし

#### 非居住者円債部門

#### BEST DEALS OF 2020

該当なし

#### 特別賞

第 7 回ハンガリー債 9 月 11 日 3 年 227 億円

第 8 回ハンガリー債 9 月 11 日 5 年 200 億円

第 1 回ハンガリー債 (GB) 9 月 11 日 7 年 155 億円

第 2 回ハンガリー債 (GB) 9 月 11 日 10 年 45 億円

〈大和/野村/SMBC 日興〉

3 年・5 年債と 7 年・10 年グリーンボンド (GB) の組み合わせで、GB はソブリンネームのサムライ債で初めてだった。コロナ禍で新興国クレジットに対する慎重な見方が続くなか、グリーンサムライ債の効果で新たな投資家を 7 年・10 年債に呼び込むことに成功。投資家向けの IR でグリーンボンドフレームワークを説明したほか、発行体のホームページに和訳を掲載しており、新規層の獲得と平均年限の長期化の双方を実現した。

#### BEST ISSUER OF 2020

該当なし

#### 証券化部門

#### BEST DEAL OF 2020

該当なし

## BEST ISSUER OF 2020

### 住宅金融支援機構

年度で 15 本・2 兆円近くの RMBS を供給し、毎回爆発的な人気を保った。コロナショックの渦中だった 4 月債でも年度最大の 2195 億円を順調に消化。人気に奢ることなく、毎月の安定的な消化を重視してタイト化も慎重に行った。1 月には社債等募集の新規則に基づいて初めてトランスペアレンシー方式で運営した。

## 外債部門

### BEST DEALS OF 2020

武田薬品工業債	6 月 29 日	10 年	25 億ドル
武田薬品工業債	6 月 29 日	20 年	15 億ドル
武田薬品工業債	6 月 29 日	30 年	20 億ドル
武田薬品工業債	6 月 29 日	40 年	10 億ドル
武田薬品工業債	6 月 29 日	7 年	7 億 5000 万ユーロ
武田薬品工業債	6 月 29 日	9 年	8 億 5000 万ユーロ
武田薬品工業債	6 月 29 日	12 年	10 億ユーロ
武田薬品工業債	6 月 29 日	20 年	10 億ユーロ

〈BofA/モルガン・スタンレー〉

1 回の起債で総額 1 兆 2000 億円弱相当の調達となった本邦ネームで過去最大級のディール。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けにくい医薬品セクターであることを強みとし、償還の平準化と負債年限の長期化を目指した。ドル建てで本邦企業として初の 40 年債を供給し、10~30 年債とともに低金利下の利回りニーズに応え、トリプル B 格の 40 年物事業債の史上最低クーポンを達成。ユーロ建て債では最長年限が 20 年となり、12 年から一気に 8 年伸びた。

### 特別賞

日産自動車 グローバル・ドル債	9 月 10 日	3 年	15 億ドル
日産自動車 グローバル・ドル債	9 月 10 日	5 年	15 億ドル
日産自動車 グローバル・ドル債	9 月 10 日	7 年	25 億ドル
日産自動車 グローバル・ドル債	9 月 10 日	10 年	25 億ドル
日産自動車 グローバル・ユーロ債	9 月 11 日	3 年	5 億ユーロ
日産自動車 グローバル・ユーロ債	9 月 11 日	5 年 6 ヶ月	7 億 5000 万ユーロ
日産自動車 グローバル・ユーロ債	9 月 11 日	8 年	7 億 5000 万ユーロ

〈モルガン・スタンレー/JP モルガン/シティグループ/みずほ〉

手元資金を確保するために海外に打って出た案件。コロナ禍で打撃を受けた自動車セクターの先行きに不透明感がある状況で、大幅な赤字を経た構造改革への取り組みをグローバル投資家に IR で説明したうえで、ディールに臨んだ。同業他社の既発債をベースに大型起債に見合う水準を示したことで、ピーク時には 250 億ドル超と 120 億ユーロ超という旺盛な札を引き寄せ、1 兆円超の資金調達に成功した。

## BEST ISSUER OF 2020

該当なし

## 新規公開株式部門

### BEST DEAL OF 2020

プレイド 12月17日上場 公募・売出：1433万9000株 229億4240万円  
〈みずほ/BofA〉

期越えのグローバル IPO を初めて実施した。仮条件を提示する段階で、未監査だった財務諸表を監査済みのものに差し替えた。ロードショーでは KPI のみならず、中長期の成長や、損益計算書の項目に関する目線を示し、テック系に強い海外投資家の需要を取り込んだ。

## 既公開株式 公募・売出部門

### BEST DEALS OF 2020

アサヒグループホールディングス 8月25日 公募：4617万5700株 1550億1182万4900円  
〈野村/JP モルガン〉

大規模 M&A のリファイナンス案件。資金計画の開示と発行登録で公募増資の可能性を事前に伝えた。業界の将来性への不安をロードショーで払拭し、海外機関投資家の 7 割が購入意向を示した。希薄化率を 1 割以内に抑え既存投資家にも配慮した。

リクルートホールディングス 11月30日 売出：8611万1300株 3398億8130万1100円  
〈メリルリンチ/モルガン・スタンレー〉

英文目論見書を作成し、マーケティング期間を 2 日に絞った本邦初のスキームで臨んだ海外 PO。80 件ほどのロードショーで、投資家に HR テックの成長を訴求した。業績改善への期待から 100 件を超える旺盛な需要が集まった。

## 不動産投資信託証券部門

### BEST DEAL OF 2020

GLP 投資法人 6月23日 公募：14万9560口 213億8049万9360円  
〈SMBC 日興/シティグループ〉

J-REIT 初の ABB を実現。コロナ発生から 4 ヶ月ぶりの J-REIT の PO で、非常時でも外部成長を追求する姿勢が評価され、市場の閉塞感を打ち破るきっかけにもなった。割引率は 1%と J-REIT 史上最も低いプライシングに成功した。

## 特別賞

ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人

2月15日 公募：4万2500口 76億4936万2500円

〈SMBC 日興/みずほ/野村〉

金融庁による国内募集の待機期間ルールの撤廃を利用した初の事例で、ローンチから募集終了まで 5 日間で完了。ディール期間の短縮が可能なことを証明し、公募増資のストラクチャーに新たな選択肢を示した。

## BEST ISSUER OF 2020

該当なし

## 転換社債型新株予約権付社債部門

## BEST DEAL OF 2020

該当なし

## 特別賞

アサヒファイニング USA（アサヒホールディングス 100%子会社）

2026 年満期ユーロ米ドル建保証付他社株交換社債 2 月 25 日 5 年 2 億ドル

〈モルガン・スタンレー〉

アサヒ HD が保証会社となり、非上場子会社が親会社の株式交換権付きドル建て CB を発行した国内初のスキーム。子会社が現地通貨の資金を機動的に調達できる一方で、IFRS を採用する親会社は株価変動による会計上のリスクを回避できる利点があり、日本企業の外貨獲得の手段として先駆的な案件となった。

### ■キャピタル・アイ Awards とは：

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債等、地方債等、非居住者円債、外債（日本企業による海外発行債）、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券（J-REIT）、転換社債型新株予約権付社債（CB）の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

### ◆株式会社キャピタル・アイについて

所在地：東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘道会ビル

設立：2006 年 7 月

資本金：8 千万円

主な事業の内容：金融市場に関するオンライン情報サービス（ニュース及びデータベース等）

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配

信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ <http://c-eye.ne.jp>(契約者サイト)／ <http://c-eye.co.jp>(公開サイト)

**【本件に関するお問い合わせ先】**

**株式会社キャピタル・アイ**

**編集部:菊地健之 03-6826-4721**